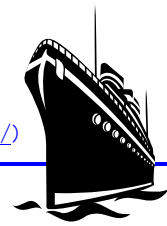


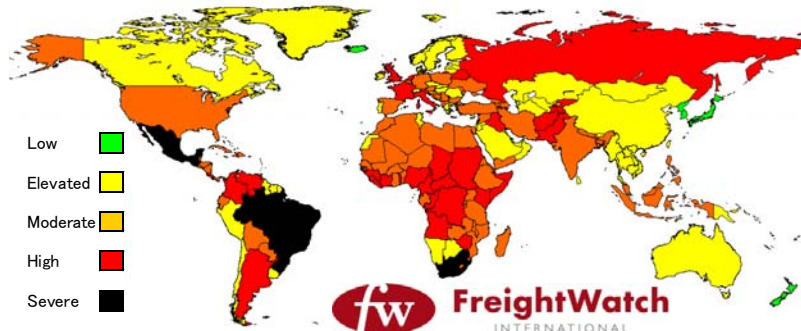
MSI Marine News

トピックス

海上保険の総合情報サイト **MARINE@vi** もぜひ、ご覧ください。 (http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

海外における貨物盗難事情

海外では、貨物盗難手法の多様化、高度化の傾向が続いており、その動向が懸念されます。今回はFreightWatch社（後述）が取り纏めた資料Global Threat Assessment（March 12, 2012）より、主要地域・国の状況をご紹介します。



<リスクの低い国>

日本、韓国、
ニュージーランドなど

<最も危険な国>

メキシコ、ブラジル、
南アフリカなど

(2011年度データ)

1. メキシコ

ここ数年間貨物の盗難件数は毎年二桁台の伸びを示している。犯罪組織による銃器を使用した事件が多く、トラックジャックだけでも毎年10,000件以上発生している。貨物の買主が輸送中の貨物盗難を犯罪組織に依頼し、彼らから元の売値より安い値段で買い取るケースや、徐行運転が必要な地区で犯人が貨物列車へ飛び乗り、貨物を併走するトラックへ投げ込むケースなど、組織的・計画的な手口が目立っている。

2. 南米

大都市の多くではここ2年の間暴力的な手口による貨物の盗難が増加している。2011年もブラジル、ペルー、ベネズエラなどでは、運転手が殺害される事件や壮絶なカーチェイスの末、警察官と犯人双方が死傷する様な事件が多発している。大きな犯罪組織が綿密な下調べの上、路上に偽物の検問を設置しトラック毎奪うという、“FAKE POLICE”と呼ばれる大掛かりな手口も増加傾向にある。盗難されたトラック自体も解体され部品として売られている。盗難事故の最も多いブラジルでは、荷主は電化製品などの高価品を輸送する際に武装エスコートを手配するなどの対策を講じている。

3. 欧州

貨物盗難は危機的な状況にあり、欧州の高速道路では2011年だけでも約90,000回のトラックジャックが試みられている。近年、手口は巧妙化、組織化、暴力化し、建物内や走行中の車両まで犯人の対象になっている。詐欺による手口も増加しており、運送業者を装った犯人がトラックを仕立て、貨物全量を詐取するという様な事例も発生している。

4. アジア

アジアは大規模な貨物盗難の観点からは比較的风险が低い地域と認識されていたが、経済発展による消費の拡大と物流の増加に伴い盗難リスクが高まっている。中国では過去より暴力を伴う盗難は少ないが、運転手の気づかない内に走行中のトラックの荷台から貨物を窃取する手口が横行している。インドでは、武装した犯罪組織によるトラックジャックや、買収した従業員からの情報を用いた倉庫内貨物の盗難など、組織的で大規模な盗難事件が増加傾向にある。

(参考) FreightWatch INTERNATIONAL : 1998年に設立され、国際貨物物流の防犯に関し様々な分析や対策などの情報を提供している組織です。 (www.freightwatchintl.com) 以上